

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500696		
法人名	グループホーム郷有限会社		
事業所名	グループホーム郷有限会社たんぽぽ		
所在地	熊本県鹿本郡植木町大字宮原177番地		
自己評価作成日	平成21年10月26日	評価結果市町村受理日	平成21年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成21年11年20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホーム横には広い畑があり、野菜の栽培や収穫が出来る。又、家族が面会に来所されても十分に駐車場が確保されている。 法人で10人乗りのワゴン車、及び他に2台の車両を所有している為、全員で外出が出来る。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設時より地域に開かれ、地域社会の一員として積極的な展開が今ではホームの夏祭りには100名もの地域住民や行政からの参加を得る等地域との交流は常態化している。職員は入居者を不安に感じさせない配慮、全体を観察しながらの個別援助、さりげない生活支援等を垣間見ることができ、職員の笑顔が入居者の笑顔を引き出し、主体的な生活を支援している。職員の就業環境への努力や高齢者福祉への熱い思いを寄せる代表者を中心として、相互に信頼関係で結ばれた職員は離職も無く、馴染みでの職員によるケアや日々の健康管理により異常の早期発見等が入居者・家族への安堵感へとつながっている。各マニュアルも整備し、年間計画のものと研修会等職員のレベルアップに取り組んでおり、入居者とのかわり方やケア向上につなげ、理念の一つである“毎日を楽しむ”を実践しているホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人権尊重、毎日を楽しみ、信頼が事業所の理念であるが管理者、介護従事者は、これに基づき利用者がゆったりとした生活空間の中でのんびりとした日々を送れるように取り組んでいる。	理念3項目を掲示し、職員の意識向上や訪問者への啓発としている。倫理規程の中に地域密着型としての姿勢を具現化したり、開設時からの理念は全職員に浸透しており、気持ちを一つに日々のケアに真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の奉仕作業に参加、又、年1回の夏祭りを実施し、地域の老人会、子ども会、住民の方にも参加してもらい事業所自体が地域に根を下ろしたホームとして交流している。	自治会へ加入し、地区の草刈り作業等奉仕作業への参加や近隣住民との交流、ホーム主催の夏祭りには地域の子どもから高齢者まで多くの参加があり、地域の一員としての位置を確保している。小学校の運動会に招待されたり資源回収に協力し、中学生の福祉体験学習の場として提供し地域に根ざした活動を展開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民の代表にも参加してもらい何か心配事や相談事等があれば気軽に相談下さいと働きかけている。又、近隣住人の方には挨拶や話しかけ等によりコミュニケーションが取れる様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、サービス向上につながる様、極力、改善に向けて、取り組んでいる	2ヶ月毎と定例化した運営推進会議は、全職員の参加や全家族へ参加を案内する等議案により変更したり、運営推進会議後にたんぼぼ祭りを開催する等創意工夫している。参加メンバー構成は十分であり、意見や提案をサービス向上に繋げ、地域への情報発信源として自治会長も協力される等、委員もホーム運営に好意的であることが窺われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には町担当者、地域包括支援センターに必ず参加してもらい、事業所の実情や取り組み等を報告し、協力関係を取っている。	行政担当者及び包括支援センターから毎回運営推進会議に参加があり、情報交換や意見交換を通してホーム運営に活かすとともに、介護認定更新時等ホームの実情等を報告している。町担当者もホームの行事への参加もあり、管理者は認知症サポーターリーダー研修の講師をする等協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしないとの認識を全職員が持ってケアにあたっている。	「身体拘束排除宣言」を作成し、マニュアルのもと勉強会を行っており、全員が拘束する弊害を正しく認識している。また、徘徊行動等一人ひとりの状態を把握し、入居者との関係構築により施錠することなく自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、介護従事者は、虐待は絶対にしない、させないの認識を持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等については理解しているが、現在まで、その必要がなかったため、活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、家族や本人に充分説明を行い、契約書や重要事項説明書にもとづいて納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日、利用者、職員が対話をし、利用者の要望等、何かあれば、反映できるようにしている。又、運営推進会議や家族面会時等においても意見を聞いている。	家族の来訪時には意見や要望を気軽に申し出てもらいよう声かけし、玄関には意見箱を設置し、出された要望等は苦情処理台帳に記載することとしている。台帳によると利用者からの相談事が主であり、職員が丁寧に対応していることが窺われた。	次回の運営推進会議の議題は家族会の発足に向けた話し合いを行うことが決定しており、全家族に参加案内をする予定である。家族同士が気軽に話し合える場としての家族会の設置にご尽力いただきたい。また、玄関にある面会簿の件も家族に諮る意向であり、家族とともに今後の対応について検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて提案や意見を聞く機会を設けている。	代表者は日常的に職員とのコミュニケーションを図り、毎月職員会議で意見交換を行っている。職員からの要望でシステムキッチンを導入する等具体的な改善を図っている。また、働きやすい職場環境や退職共済等就業環境も整い、定着率の良いホームである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のミーティングを実施し、職員の希望や要望等、必ず聞いて職員が向上心を持って働けるよう勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のミーティングや法人外の研修等職員の希望があれば参加してもらい、職員としての資質の向上に心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本、菊池ブロックの研修会等、必ず1名以上は参加して、地域同業者との交流をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでにおいて、本人の希望や不安に思っている事等、聞く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでにおいて、家族の希望や不安に思っていること等、聞く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者は支援相談員としての業務経験もある為、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者本人と一緒に食事作りをしたり、同じものを食べたりし、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や来所された時に本人の状態や様子等、家族に報告し本人の状態をよく理解してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人、友人等面会に来所された時、本人の居室でお茶等を飲みながら語られる様にしている。	近隣からの入居者が多く、知人・友人の訪問や、行きつけの美容室の利用、ホーム内で行っているデイサービス利用者との交流、通院の帰りに自宅周辺を回ってみたりと馴染みとの関係が途切れないよう支援している。また、選挙投票等社会性も失わないよう支援し、家族と墓参りや見舞いに出かける等家族の協力支援も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	H19. 10. 1. 畳の居間を増築、完成したので、利用者同士が語らえ関わり合いが持てるようになってきたと思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても継続的な支援が必要とされる利用者や家族には、かかわりを持つ様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切に毎日を送ってもらう様、努力している。	入居者と職員との関係はなんでも言える関係にあり、遠慮なく直接申し出られ、出来る事は叶えたいと希望を優先するよう努力している。発語困難な入居者には傾聴や寄添いのケアの中で意向や思いを推察し、主体的な生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の介護計画にも取り入れ、サービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を総合的に把握し、介護計画を作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の担当ケアマネや、本人、家族の意向等により、介護計画を作成している。	アセスメント時に本人・家族の意向を把握し、日々の個別記録や担当職員の観察結果をもとに毎月のミーティングで話し合いを重ね、半年毎に見直している。担当者会議は本人・家族とケアマネジャーで行っているが、職員会議時にプランを説明し、意見交換を行っており、職員の気づきや観察の結果が反映された具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子等、個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、希望等に応じ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム全体として、地域の民生委員や、駐在所、消防所、学校等と協力、連携している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がかかりつけ医に定期受診や特診等により、適切な医療が受けられる様に支援している。	基本的には入居前からのかかりつけ医での受診や家族の希望する主治医となっている。健康管理の徹底により異状の早期発見に努め、特変時にはホーム近くのクリニックの協力を得ており、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名、準看護師2名が職員として在職している為、充分日常の健康管理や医療活用の支援が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時、サマリーのやり取りや情報交換等密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期となった時、家族にはそのつど早く説明を行い、かかりつけ医とも相談しながら連携している。	医療連携体制指針のもと家族に説明し同意書を交わしている。入居者の心身状態の変化に家族とその都度話し合い、主治医と相談しながら、“終末期までみていただきたい”との家族の思いに、出来る限りホームでの生活継続に全職員と話し合い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルの再認識や消防署より救急蘇生法指導訓練等を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練の実施や地元消防団に災害時の協力依頼等をしている。	消防立会いの総合訓練と自主避難訓練を実施し、火災通報装置や緊急時・災害時のフローチャート等を掲示し、職員への意識付けを行っている。職員も地元消防団員の一人として活動し、近隣住民や消防団に協力要請を行い、3日分の備蓄の用意や避難場所の確認等も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者に対して、丁寧語で話す様に、又、誇りやプライバシーを損ねない様な声かけをしている。	プライバシー保護の為にマニュアルやプライバシーポリシーの研修会を開催したり、管理者は“ホームは入居者一人ひとりの家である”と認識するように指導しており、入室時のノックや呼称・トイレ誘導等入居者の尊厳を守り、丁寧に対応している。個人情報保護マニュアルも掲示し、個人情報に関する記録の取り扱いは事務所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に午後の時間帯に入居者の中に職員が入り、対話を持つ様にして入居者の思いや希望を表せる様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントに基づいて、1人ひとりの介護計画を作成し、その人らしい生活が出来る様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は特に本人の好まれる身だしなみの支援を行い、理容、美容も本人の希望どうりの支援を行っている。判断等できない方については、職員が声かけを行い対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を聞き立てている。又、食事作りや、片付け等、入居者の出来る範囲で参加してもらっている。	煮物や野菜等入居者の好みを中心にした献立を作成し、衛生管理を徹底し、盛り付けや一品に味噌を使用した場合には汁物は醤油味にする等気配りのある料理である。入居者も食材の下ごしらえや台拭き等できることを一緒に行い、当番入居者の号令で入居者と職員が会話を楽しみながら和やかに食事をしている。	嚥下や嗜好により代替品や調理形態を工夫する等個々への配慮もうかがわれる。エプロンの使用についても職員の見守りでの対応等検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人によってカロリー摂取量を調整している。糖尿、高血圧者にたいしても配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声かけを行い、自分で出来ない方については、介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に介助を要する人は、定期的にトイレに誘導し、排泄チェック表を作成している。	排泄はできるだけ自立できるように、排尿・排便パターンを詳細に記録したうえで把握し、定期的にトイレへ誘導している。下着も入居者のこれまでを大切に好みのものを使用してもらっている。天気の良い日にはポータブルトイレを天日干しにする等衛生的に保つことも自立支援につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維や乳製品を取り入れ、レクレーションでも体操等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴者、個人個人に合わせた入浴を行っている。	基本的には午前中にゆっくりとした入浴を支援している。「朝ぶろは正月気分になれる」と好評であり、菖蒲湯やゆず湯等も取りいれている。入浴拒否者への声かけの工夫により今では全員が楽しんで入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に個人の行動に関して制限はしていない。個々の生活習慣やその時々状況に応じて生活されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示どりの服薬は出来ている。薬の目的や副作用の確認についても充分行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら自分の役割を見つけ出したり、こちらからお願いしたのが、いつの間にか、その人の役割になったりと、入居者全員が何らかの役割を持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物等で外出する機会を充分つづけている。	日常的な近隣への散歩や個別買い物・ドライブを兼ねた受診、季節行事(彼岸花やコスモス見学)等、入居者の体調や希望・天候等を考慮しながら戸外に出かけるよう支援している。また、地域住民の好意によるみかん狩りや墓参り・外食等家族の協力支援も得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、入居者、1人ひとりの希望や力量に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等希望があれば、そのつど対応しており、ダイヤルを回したり、話の内容を伝えたり、必要があれば介助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	造りが一般家庭と変わりなく、物品や、装飾も家庭的である。	居室の中央にリビング兼ダイニングを設置し、システムキッチンを職員の提案により使い勝手のよいものへ変更している。室内は明るく、騒音や異臭等も無く、浴室・トイレも掃除が行届き清潔に保たれている。段上がりの畳のコーナーも増設され、陽だまりで横になったり、洗濯物たたみ等入居者の憩いの場となっている。	玄関には意見箱や面会簿が設置されている。整理整頓等により季節感ある空間作りが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に横になってくつろげる場所があり、入居者同士、自由に過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用されていた家具や食器、道具等の持ち込みを進めている	エアコンやベッドが設置された居室は、えもんかけや筆筒・鏡台等女性らしい馴染みの物が持ち込まれ、家庭での生活の延長上であることのがわかる部屋や心身の状況により品物を置かない部屋等である。職員は掃除や空気の入替え等を徹底し、心地よく過ごすよう支援している。	非常灯が気になる入居者の希望により、居室の入口には暖簾や用紙等により対応しているが、見栄えにも配慮し、定期的な見直しに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力を十分に活かし、自分で出来る事は自力で毎日を生かされる様に支援している。		